

各関係機関団体の長) 殿
各病虫害防除員

福岡県病虫害防除所長

技術情報第2号

イチゴ炭疽病の潜在感染状況について

イチゴ炭疽病の潜在感染状況を調査した結果、潜在感染株率は過去7カ年平均よりも低い状況でした。

現在、調査ほ場での発病は認められませんが、今後の気象条件（高温・多雨）によっては感染拡大が懸念されますので、防除の徹底を指導願います。

1 対象作物名：イチゴ

2 病虫害名：炭疽病

3 発生状況

(1) 7月2半旬に県下21か所の育苗床の苗から小葉を採取し、エタノール浸漬法による炭疽病の潜在感染株調査を行った結果、潜在感染株率は本調査を開始して以来最も少なく、前年・平年（過去7カ年平均）より少なかった。また、潜在感染株確認ほ場率も前年・平年（過去7カ年平均）より少なかった。

・潜在感染株率 **11.4%**（前年 48.6%、過去7カ年平均 30.6%）

・潜在感染株確認ほ場率 **66.7%**（前年 95.2%、過去7カ年平均 79.1%）

(2) 7月5半旬に巡回調査を行った結果、発生株率は前年・平年（過去9カ年平均）並で、発生ほ場率は前年・平年（過去9カ年平均）より少なかった。

・発病株率 **0.0%**（前年 0.05%、過去9カ年平均 0.25%）

・発病ほ場率 **0.0%**（前年 9.1%、過去9カ年平均 10.0%）

(3) 向こう1か月の気象予報（7月26日付福岡管区气象台発表）では、気温は高い、降水量は少ないとされている。

4 防除上注意すべき事項

(1) ほ場をこまめに見回り、発病株及びその周辺株は速やかに除去・処分する。

(2) 発病後に治療できる薬剤はないことから、感染を防ぐために予防散布を徹底する。

(3) 降雨、台風の前後や摘葉後にも薬剤散布を行う。なお、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

(4) 急激な肥効は発病を助長するので肥培管理に注意する。

(5) 雨よけビニルや寒冷紗を被覆しているほ場では風通しを良くする。

(6) 低温処理時の注意事項

- ア 夜冷短日や低温暗黒処理は、株へのストレスがかかり発病を助長するので、入庫前に生育状況を確認し、必ず健全苗を用いる。
- イ 入庫する際は過湿を防ぐため、苗を詰めすぎないように注意する。
- ウ 株冷入庫前、陽光処理時のかん水は、過度にならないように注意する。

表 エタノール浸漬法によるイチゴ炭疽病の潜在感染株率の調査結果 (単位: %)

調査地点		本年(H25年度)	H24年度	H23年度	H22年度	過去7ヵ年平均
本所	糸島市	0.0	10	20	40	18.6
	福津市	5.0	0	0	15	6.7
	久留米市1	10.0	5	10	30	15.7
	久留米市2	0.0	25	5	25	12.1
	筑前町	0.0	65	40	30	25.7
	飯塚市	10.0	90	25	55	43.8
	福智町	10.0	75	10	85	27.9
筑後支所	八女市1(黒木)	60.0	40	35	50	25.7
	八女市2(蒲原)	0.0	65	-	15	18.3
	筑後市	0.0	85	20	85	44.2
	大川市	5.0	35	10	75	17.1
	みやま市高田町	50.0	95	90	100	50.7
	大木町	15.0	20	20	55	16.4
	広川町1	5.0	55	75	50	33.3
	広川町2	15.0	25	100	25	25.0
行橋支所	岡垣町1	0.0	25	35	75	45.7
	岡垣町2	25.0	40	40	85	47.1
	行橋市	15.0	35	35	27	25.3
	豊前市1	5.0	90	60	45	51.4
	豊前市2	10.0	60	75	85	50.0
	みやこ町	0.0	80	100	60	60.0
潜在感染株率 %		11.4	48.6	40.3	52.9	30.6
潜在感染株確認ほ場 %		66.7	95.2	95.0	100.0	79.1

注1 調査地点は、イチゴ育苗期定点調査ほ場21か所 1地点20株、1株当たり2～3枚を採取
 注2 処理日：7月11日 判定日：7月25日 (25℃で2週間静置)

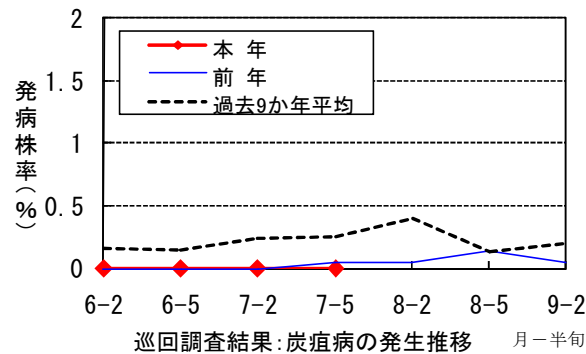


写真1 炭疽病による葉の汚斑

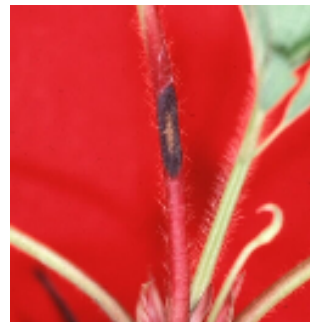


写真2 炭疽病による葉柄の褐変